

学校評価書

総社市立山手小学校
校長 中司 康彦
(公 印 省 略)

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

1 心プロジェクト

(1) 心豊かな児童の育成

品格教育と関連づけた「特別の教科道德」の授業、月目標・週目標の遵守や振り返りを大切に生徒指導の取組、「良いこと見つけ」の取組などを行った。また、いじめを考える習慣や人権週間に合わせて、人権標語、「きらりカード」・「なかよしの輪」等の取組、人権に関する内容の道德の授業等を実施した。そして、11月に全校で言葉を考える学級活動を行った。

アンケートでは「思いやりの心が育っている」、「自分の子は友達から優しくされている」についての回答が、昨年度と同様、児童、保護者とも、肯定的意見の割合が非常に高い。これは、人権に関する取組やピア・サポートの取組等での児童の様子、充実感、変容等を保護者や地域に学校日より、学年・学級日より等で、定期的に発信したことも理由の一つと考えられる。今後も継続して発信していく。また、人権に関するアンケートでの保護者の肯定的意見の回答の割合が昨年度より非常に高く、「分からない」と回答した保護者の割合も昨年度と比べ7%減少した。その理由は、例年の取組だけでなく新しい取組を行い、その新しい取組を「学校日より」等でこまめに発信したこと、全教職員が保護者とこまめに連絡を取り、保護者の不安な気持ちを減らしたことなどが考えられる。

来年度、児童が友達からのサポートを実感できるようにするための「きらりカード」や、「良いこと見つけ」の取組を、より工夫しながら引き続き行っていきたい。「特別の教科道德」については、若手教員と中堅教員が授業研究をする取組や、校内研修等は継続していく。依然、人権に配慮した対応について、保護者の肯定的評価が他と比べ低いことに対しては、家庭訪問も含め保護者へのこまめな連絡の徹底を継続していく。昨年度より減少したとはいえ、「分からない」と回答した保護者が依然多いことに対しては、人権に関わる学校や学年の取組を、保護者や地域への発信を継続したり、分かりやすい内容に工夫したりすることが必要である。

(2) 「す・き・だ山手小学校運動」の推進

「あいさつ」については、週目標への設定、教師の率先垂範、児童会や児童のボランティアを中心とする主体的な取組、地域住民の協力等例年の取組を行ったが、年度当初の休校、マスク着用、大声を抑制する風潮・指導などから、「あいさつ」の声が小さくなったと考える。そんな中、全校で児童に会釈を推進し、実行する児童が増加えたことは大きな成果であった。アンケートでは、「あいさつ」、「履物」、「掃除」に関する肯定的回答の割合が、児童・教職員と比べ保護者が低かった。これは児童の姿が、学校と家庭との大きな違いがあると思われる。

来年度、「あいさつ」、「掃除」、「履物」については、保護者への周知の徹底と、保護者のより一層の協力が必要となる。心豊かな児童の育成を図る上で、行動の目的や価値をしっかりと伝え、その必要性や重要性を児童が理解し、「学校でも家でも」実践できるようにすることが大切である。そのためにも、全職員が常に意識を高め、共通理解をして指導にあたることがさらなる成果へつながるものと考ええる。

2 学びプロジェクト

(1) 確かな学力の育成

「岡山型学習指導のスタンダード」を基本として、児童に達成状況が分かりやすい「めあて」の研究、振り返りの工夫など、児童が主体的に取り組む授業を目指して改善を進めてきた。スタンダードや「めあて」、「振り返り」に関するアンケート結果を見るとどれも教職員の自己評価が高く、全教職員がスタンダードを意識して、本年度の研究の方向性を理解し、授業改善に取り組んだことが分かる。そして、今年度も相互授業参観の取組を継続し、教職員各自の授業改善につなげることができた。「わたしは自分の考えを筋道立てて話したり書いたりできるようになっている」では、昨年度と比べ、質問内容に「筋道立てて」という表現が加わったにも関わらず、肯定的な回答の割合が、昨年度とほとんど変わらなかった。その理由は、授業中、自分の考えを発表したり書いたりする時間を、意図的・計画的に設けたこと、1～3年生が週末に日記を宿題として定期的に出したこと、4～6年生が山手っ子タイムで文章を書いたり、文章を読解して解いたりする問題を行ったこと、全ての学級で指導した上で作文の宿題を出したことなどが考えられる。

来年度、授業にミニ作文を書かせたり、考えを発表する際にその考えになった理由を言わせたり、振り返りを細かに行ったりする取組は継続していく。また、低学年の日記の宿題の取組は継続していく。そして、自主学習の工夫した取組を継続し、家庭学習時間を増やしていきたいと考えている。さらに、6年生は、長いスパンで宿題を出したり、自主学習に力を入れたり等、中学校生活を見据えた取組も継続していきたい。

(2) 特別支援教育の充実

各学級において特別支援教育の視点を生かした教室環境づくりや授業づくりに取り組むとともに全職員で全児童を支援できるようにするため、各種委員会、終礼等児童の情報を共有する場を設け、共通理解の下に支援してきた。教職員へのアンケートでは、ほとんど肯定的回答で、常に意識をして授業や支援に取り組んできたことが伺える。

今年度、特別支援学級の担任団が立案・実施した校内研修が行われ、全教職員でユニバーサルデザインの視点を共有化することができた。来年度も、理解や指導を深める工夫をし、話し合い活動を組織化する「共有化」の取組を継続し、「分かる・できる授業」を実践していきたいと考えている。

3 元気プロジェクト

(1) 体力づくり

業間休み以外のすべてのアンケートについて、児童、生徒とも、肯定的回答が非常に高い。「業間休みに外に出て活動している」では、児童の肯定的な回答が昨年度より、8%低くなっているが、コロナ禍の制約等もあるため、概ね達成したと考えられる。体育科の授業では3分間走を実施し、業間休みでは期間を決めた縄跳びを計画的に実施した。また、昨年度同様、岡山県チャレンジランキングに加入し、児童のやる気につなげた。しかし、コロナ禍の影響により、業間休みのペース走の中止や、体育の授業でも多くの制約があった。来年度もコロナ禍の制約も視野に入れながら、児童のやる気につなげる取組を継続して行い、児童が楽しく、意欲的に体力づくりができるようにしたいと考えている。

(2) 基本的生活習慣の定着と健康作り

メディアコントロール週間に関するアンケートでは、肯定的意見が児童88%、保護者77%という結果であった。学校では、メディアコントロール週間中の保健委員会の児童による工夫した広報活動や、担任による学級指導を実施し、総社東中学校区で共通した小学校の取組も行われたことで、児童のめあてを守ろうとする意識は高まった。しかし、前向きに取り組む家庭と、取組が難しい家庭との差を感じている。今後、メディアの利用については、学校での学級指導等で今後も継続的に指導し、児童自らメディアコントロールできる力を育てていくと共に、家庭での一層の協力を得られるよう働きかけの工夫をしていきたいと考えている。そして、総社東中学校区で共通した小学校の取組も継続していきたい。

4 地域連携プロジェクト

(1) 開かれた学校づくり

学校便りや学年便り、ホームページで教育活動の様子を発信し、保護者や地域にとって役に立つタイムリーな情報誌やホームページづくりに努めてきた。その結果、アンケートの回答では、保護者の肯定的回答が非常に多く、保護者と学校との信頼関係を構築する役割を果たしている。今後、担当者の負担を考慮しながら、記事の作り方、更新の仕方等を工夫することにより、最新の情報を定期的に届けることができるようにしていきたい。

(2) 学校支援ボランティアを積極的に活用する

今年度、コロナ禍の影響で、学校支援ボランティアに依頼することが、非常に減少したにも関わらず、アンケートにおける児童・保護者の肯定的意見が昨年度とほとんど変わらなかった。これは、学校支援ボランティアの有効性について、児童・保護者ともに周知されたと考える。しかし、教職員のアンケート結果には影響が出ていた。

来年度、コロナ感染症の状況を見ながら、取組ごとに学校支援ボランティアの活用を考えていきたい。そして、ボランティアの方々が、より意欲的に取り組むことができるよう、活動する日に校内放送で児童に伝えること、学校だより等に児童の感想や感謝の気持ちを載せること、児童が直接ボランティアの方々と対面し、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えること等、実施していきたい。今後も、支えてくれる地域の方々への感謝の思いや、ふるさと山手への愛着の思いが、より高まっていくよう、よりよい方法・やり方を継続していくことで、ふるさとを愛する子どもの育成を図りたい。

2 学校関係者評価者名

竹田 祥郎（学識経験者）	尾崎 啓一（山手公民館 館長）
田中 真秀（大阪教育大学大学院 特任准教授）	守安 雅美（主任児童委員）
市村 みみこ（主任児童委員）	三村 理秀（山手小PTA会長）
渡邊 美智子（山手小PTA副会長）	

3 学校関係者評価

- 1 心プロジェクト
 - ・「思いやりの心」については、一定の成果があった。今後も具体的で児童に分かりやすい取組を通して、学校と家庭が連携しながら、児童の自己肯定感を育成してほしい。
 - ・「学校が楽しくない」と回答している児童の内実を把握し、分析することを通して、全児童が100%「学校が楽しい」と回答することを目指してほしい。
 - ・「友達が優しくしてくれる」と回答した児童の割合が増えていることを評価する。
 - ・「人権に配慮した対応」について保護者の評価が上がったのは、「何故人権に配慮した対応なのか」を教職員が保護者に発信した結果が出たものとする。今後も引き続き行ってほしい。
 - ・「すきだ山手小学校」について、保護者が低い評価なっているところを分析し、児童、保護者への働きかけを継続してほしい。
- 2 学びプロジェクト
 - ・全職員で全児童をきめ細かに支援する取組を評価する。
 - ・「山手っ子タイム」の工夫した取組を評価し、継続してほしい。
 - ・研究主題に「筋道立てて」という表現を入れたことで、教員が児童を「筋道」を意識して指導できたことを評価する。今後、書くことに関して重点的に取り組んでほしい。
 - ・家庭学習の目標時間を学年によって変える取組の成果が出ている。
 - ・自主学習の工夫した独自の取組を評価する。
 - ・児童の意欲を向上させる掲示物等、学習環境の整備を継続してほしい。
- 3 元気プロジェクト
 - ・コロナによる制約の中、児童の工夫した運動の取組が実施できていることを評価する。
 - ・来年度に向けて、目標数値の検討を考える必要がある。
 - ・メディアコントロール週間において、児童一人ひとりが、例示されたためあてを選択する取組は継続してほしい。
 - ・今後も早寝、早起きについては、児童にしっかり大切さを伝えること、保護者の協力を要請することを、継続して取り組んでもらいたい。
- 4 地域連携プロジェクト
 - ・いろいろな便りによって、学校の様子が保護者に伝わり、保護者と学校との信頼関係が構築できている。
 - ・コロナ禍の中でも、ボランティアと児童の交流は、工夫しながら引き続き行ってほしい。
 - ・前向きに取り組んでいる教職員の姿勢により、学校は保護者や地域から信頼を得ている。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 1, 心プロジェクト
 - ・児童が友達からのサポートを実感できるようにするために、「きらりカード」の取組・帰りの会での「良いこと見つけ」の取組,「なかよしの輪」の取組,人権に関する道徳の授業や学級活動をより工夫しながら引き続き行っていく。
 - ・あいさつを最重要課題として、児童会活動、学級活動等で工夫した取組を実施していく。
- 2, 学びプロジェクト
 - ・授業にミニ作文を書かせたり、考えを発表する際にその考えになった理由を言わせたり、振り返りを細かに行ったりする取組は継続していく。
 - ・宿題の出し方を工夫することで、家庭学習時間を増やしていく。
 - ・6年生の中学校生活を見据えた取組を継続していく。
 - ・児童に「書く力」をつけることを、最重点取組として授業、家庭学習を工夫していく。
- 3, 元気プロジェクト
 - ・コロナ感染症の状況も考慮に入れながら、県チャレンジランキング加入等、児童のやる気につなげる他の工夫も考え、実行していく。
 - ・総社東中学校区で、幼小中連携による減メディアの取組を、さらによりよいものにするために、改善しながら継続して行っていく。
- 4, 地域連携プロジェクト
 - ・学校支援ボランティアと児童の交流を、コロナ感染症の状況も考慮に入れながら、工夫しながら実施していく。